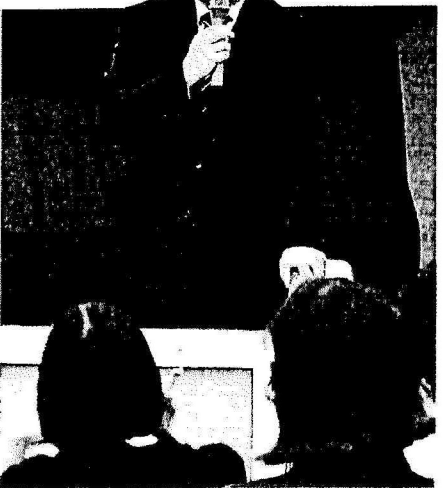


長男が亡くなった学校事故について説明する宮脇勝哉さん  
神戸市長田区大谷町2



## 学校で事故対応するには

神戸長男亡くした宮脇さん講演

神戸常盤大学（神戸市長田区大谷町2）で30日、学校での事件事故への対応について考える授業が行われた。部活動中に長男を亡くした遺族で「全国学校事故・事件を語る会」代表世話人の宮脇勝哉さん（60）は宝塚市で講演し、学生約80人を前に「いじめ、体罰をなくす学校文化をつくってほしい」と語り掛けた。

宮脇さんの長男健斗さん（当時13）は1999年、川西市立川西中学校でラグビー部の早朝練習中に倒れ、翌日、熱中症による多臓器不全で亡くなった。

宮脇さんは、告別式直前に学校側から理不尽な言葉を浴びせられたり、市教委

から対話を拒否されたりするなど自身の経験を語った。

その上で、学校での事故対応（事前・事後）に求められることとして、事故直後の迅速かつ的確な初動調査や、徹底した情報公開と説明責任など9項目を挙げた。また、学校や教育委員会に事故対応の専門部署がないことから「当事者意識がそれぞれになくなる」と指摘した。

小学校教諭を目指す同大教育学部4年の山下菜月さん（21）は「教員も学校も地域も、子どもの声に耳を傾けて、安全への準備をすることが大切だと思った」と話した。

（篠原拓真）